

# さいたま市M I C E誘致戦略（案）について

平成30年1月31日（水）  
都市経営戦略会議資料  
経済局商工観光部観光国際課

さいたま市MICE誘致戦略を策定してよろしいか伺います。

## さいたま市MICE誘致戦略（案）の構成

第1章 戦略策定の背景と目的

第2章 さいたま市を取り巻く環境

第3章 さいたま市の現状と課題

第4章 取組の方向性

第5章 施策展開

第6章 戦略の推進に向けて

## 1. 戦略策定の背景と目的（第1章）

### 背景と目的

- 本市では首都圏広域地方計画においても、東日本の玄関口として、多種多様な人・モノ・情報が集結する対流拠点としての役割が位置づけられ、MICE分野でも発展が期待される。
- 一方、MICEの開催・誘致については、近年、世界各国、また日本の各都市において、取組みが強化されており、厳しい競争環境にある。
- 本市におけるMICE開催件数を増加させ、地域経済の活性化、都市プレゼンスの向上につなげるには効率的・効果的な誘致活動が必要。
- MICE分野における本市の目指すべき将来像の実現に向け、取り組むべき施策の方向性を示す。

### MICE振興の意義

#### 高い経済効果

- 一般的な観光客以上に周辺地域にもたらす経済効果

#### ビジネス機会の創造

- MICE開催を通じたビジネスネットワークの構築
- 先進技術に触れることによるイノベーションの創出

#### 都市プレゼンスの向上

- 地域の魅力を対外的に発信し、都市の知名度を上げる絶好の機会
- 成長分野における産業振興等を通じた、開催都市の地位の確立・向上

### 計画期間

**2018年度から2020年度までの3年間**

（2021年度以降については次期総合振興計画の策定に合わせて見直しを実施）

## 2. 現状と課題（第3章）

### 強みと弱みの整理

- ・ M I C E の開催実績や関連施設の状況、本市を取り巻く環境などから、M I C E 誘致に関する強みと弱みを整理。

### 強み (Strengths)

- ・ 鉄道・道路網による交通アクセスに優れている (M, I, C, E)
- ・ 首都圏広域地方計画での対流拠点として位置づけ (M, I, C, E)
- ・ 東日本連携の取組として、（仮称）東日本連携支援センターの開設予定、および広域周遊ルート策定が進められている (M, E)
- ・ 「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の活用をはじめ、環境に対する先駆的な取組みを実施している (C, E)
- ・ 学会誘致のキーパーソンを有する大学、医療施設、研究所等が多数存在している (C)
- ・ 盆栽、人形、鉄道、自転車といった独自のテーマ、コンテンツについて、一定の認知度を得ている (E)
- ・ さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002があり、スポーツ、コンサートといった集客効果の高いイベント開催の基盤がある (E)

### 弱み(Weaknesses)

- 主要MICE施設の稼働率が高く、新規に誘致する催事を受け入れにくい（C,E）
- 宿泊施設の稼働率が年間を通して高い状況であり、特に大規模催事開催時には市内での宿泊予約が難しい状況にある（M, I, C, E）
- 参加者や関係者の宿泊需要を生みにくい単日開催のコンベンションが多い（C）
- 展示会、見本市等の開催に適した平土間型施設が限定的（E）
- アフターコンベンション等に活用可能なユニークベニューや観光資源が限られている（C）
- 誘致担当者の人員が少なく、財政支援制度の助成金額も強化の余地が大きい（C）

## 3. 取組の方向性（第4章）

### 目指すべき将来像

本市の強みを最大限に生かし、重点施策の推進と連動しながら、広域的な枠組みの中で本市が期待されている役割強化を進めていくことで、

**「東日本の中核都市にふさわしい“MICE都市さいたま”の確立**

を目指す。

- 目指すべき将来像の実現のためには、まず、長期的取組の土台となる基盤整備から始めることが必要。
- 今後取り組むべき段階的なステップを見据え、本戦略の計画期間（2018年度～2020年度の3年間）は、目標達成に向けた基盤を整備する期間と位置付ける。

計画期間(3年間)

2018年度から2020年度  
(基盤整備期間)

2021年度以降  
(成長促進期間)

東日本の中核都市  
にふさわしい  
“MICE都市さいたま”の  
確立

## 3. 取組の方向性（第4章）

### 本計画期間における取組の方向性

- 本戦略の計画期間における取組の方向性は以下のとおり。

#### 重点ターゲットの設定

確実なMICE開催件数の増加を図るとともに、市が展開する施策と相乗効果があるMICEの開催・誘致に注力。

#### ソフト施策の方向性

既存のMICE施設や観光資源を最大限に活用しMICE誘致を行い、新たなキーパーソンやステークホルダーの発掘、誘致体制の強化を図る。

#### ハード施策の方向性

既存のMICE施設との規模や機能分担を考慮しながら、民間事業者のノウハウを活用しつつ、重点ターゲットを見据えたMICE施設の誘致活動を展開。また、宿泊特化型ホテルの誘致を重点的に行う。

## 3. 取組の方向性（第4章）

### 重点ターゲット

- ・ 目指すべき将来像の実現のため、積極的に誘致を進めるべき重点ターゲットを設定。

#### 【重点ターゲット設定にあたっての考え方】

- ・ 広域連携の中で期待される本市の役割を遂行するために必要なものである
- ・ 現時点で一定の実績を有する分野をさらに強化するものである
- ・ 本市の重点施策の推進に寄与し、さいたま市らしさを対外的にアピールすることができるものである

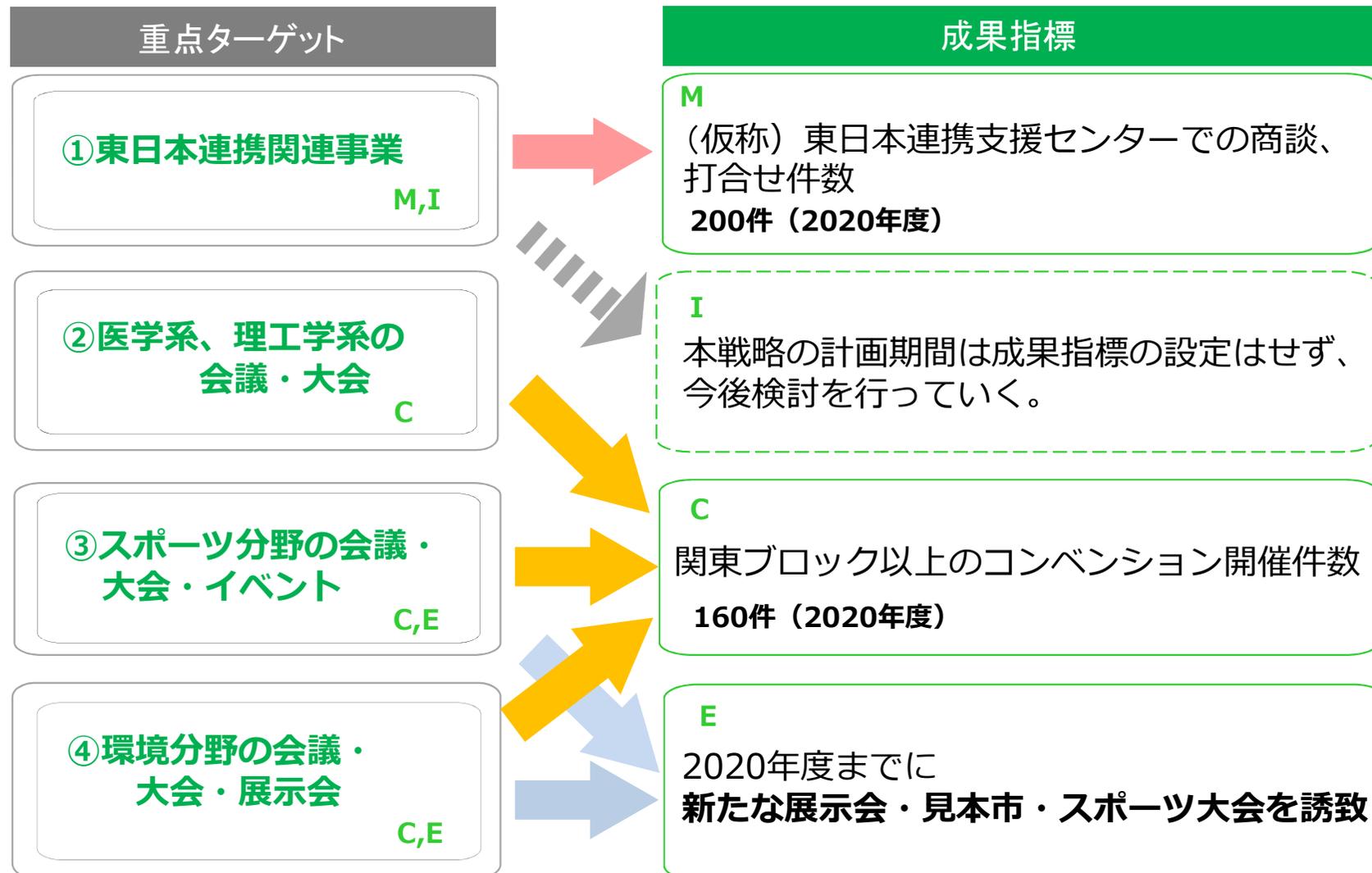


重点ターゲット①	東日本連携関連事業（M, I）
重点ターゲット②	医学系、理工学系の会議・大会（C）
重点ターゲット③	スポーツ分野の会議・大会・イベント（C, E）
重点ターゲット④	環境分野の会議・大会・展示会（C, E）

3. 取組の方向性（第4章）

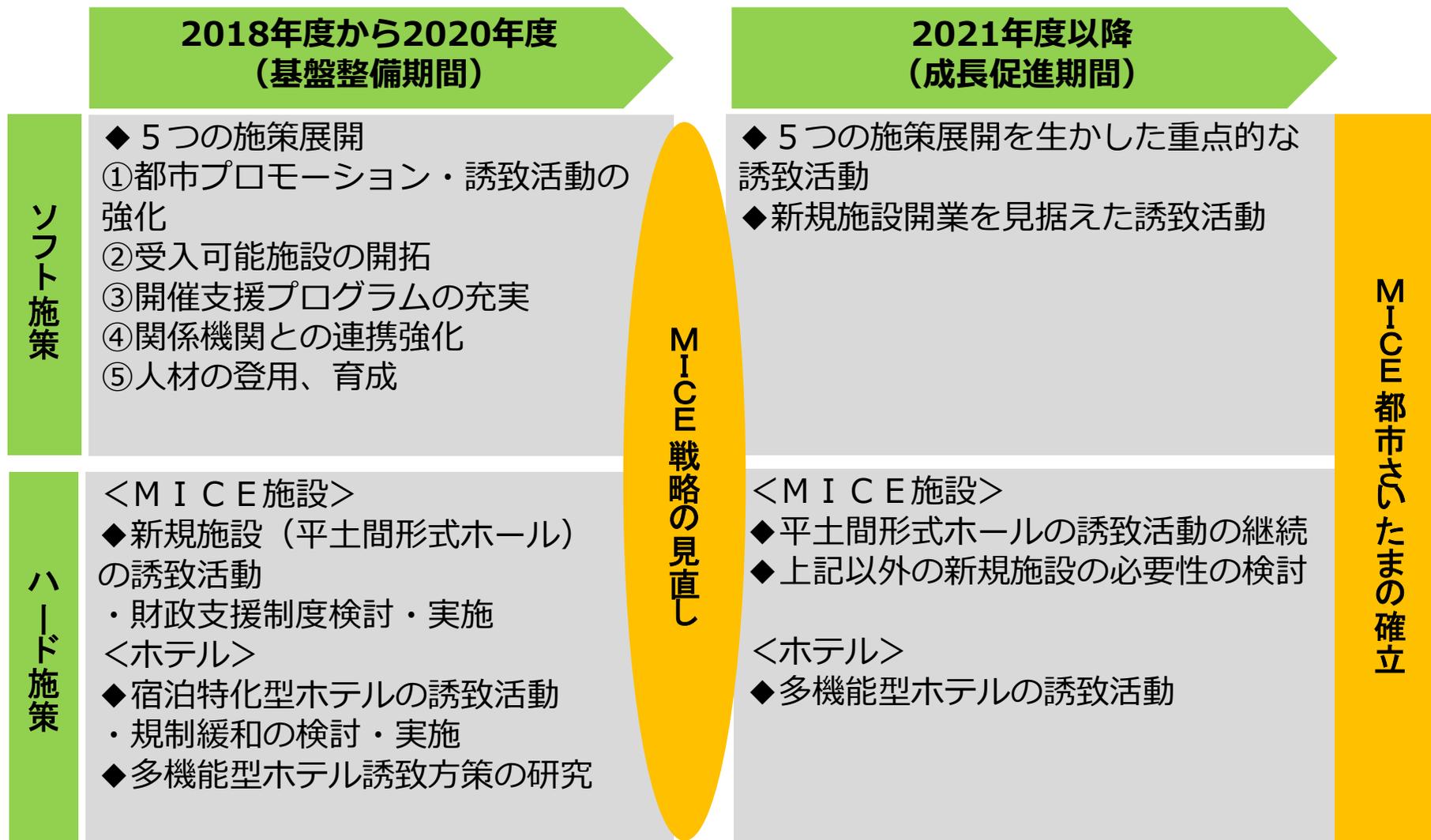
成果指標

・本戦略の計画期間における成果指標は以下のとおりである。なお、成果指標は次期総合振興計画の策定にあわせて見直しを行う。



4. 施策展開（第5章）

- ・ 目標達成に向け、戦略期間を通してソフト・ハード両面から施策を展開。



## 4. 施策展開（第5章）

### ソフト施策

#### ①都市プロモーション・誘致営業の強化

- ・ 重点ターゲットの誘致に関するキーパーソン、ステークホルダーの発掘や集中的に誘致活動のネットワークを拡大
- ・ 主催者に対する情報発信の強化、新たな営業手法の確立

#### ②受入可能施設の開拓

- ・ 市有施設の有効活用（期日前優先予約）
- ・ 観光資源を生かしたユニークベニユーの新規開拓

#### ③開催支援プログラムの充実

- ・ コンベンション開催助成金等の拡充

#### ④関係機関との連携強化

- ・ 地元大学との連携、協定（大学施設でのコンベンションの開催等）
- ・ 東日本連携でのMICE誘致に関する広域的な取組（アフターコンベンションの提案等）

#### ⑤人材の登用・育成

- ・ MICE誘致のノウハウを有するMICEアンバサダー等の人材登用
- ・ （公社）さいたま観光国際協会などの誘致体制の強化、人材の育成

## 4. 施策展開（第5章）

### ハード施策

#### MICE施設

- ・ 既存のMICE施設との規模や機能分担、展示会・見本市やスポーツ・コンサートの開催を見据えて平土間形式のホールの誘致活動を行う。
- ・ 市内に類似規模の施設が無く、展示会を併せた医学系学会などの開催やバスケットボール、バレーボール等のスポーツ、コンサートの開催を考慮し、2,000㎡～5000㎡規模を想定。
- ・ 民間事業者での施設整備を想定して、財政支援制度を検討・実施

#### ホテル

- ・ 宿泊特化型ホテルの誘致を重点的に行い、市内の宿泊機能に強化を図る。
- ・ ホテルとの相互利用による効果の高いバンケットは、ホテルとの事業を分離すれば設置は可能であるとの民間事業者の意見があることから、ホテルの付帯的な機能として誘致を行う。
- ・ バンケットの規模は、既存施設との機能分担を考慮し、ミーティングや小規模コンベンションの開催が可能である500㎡程度を想定。
- ・ 宿泊事業者の進出を促すため、規制緩和の検討・実施
- ・ 国際会議等でのVIP受入れや本市のブランド力向上を見据え、スイートルームやバンケットを有する多機能型ホテルの誘致方策を研究。

## 今後のスケジュール

平成30年1月31日 都市経営戦略会議



2月定例会にてMICE誘致戦略（案）を議会報告



平成30年3月 MICE誘致戦略策定